

第16回ボランティア研修交流会

雲仙岳災害記念館 (がまだすドーム)

通院介護センター「さわやか」第十六回ボランティア研修会が九月八日に行われました。参加は、ボランティアさん、その家族、職員、総勢四十名で、貸切バスが満席になりました。目的地は雲仙災害記念館です。早朝七時に小倉駅前を出発し、八幡駅前を経由し、九州自動車道、長洲からフェリー



で一路島原へ向かいました。往きの車内では、通院介護センター「さわやか」五周年記念のVTRを見ました。「さわやか」のことがよく理解できたと好評でした。また菊水ICまでの到着時間あてクイズなど楽しみながら現地に着きました。

雲仙災害記念館は、設立されたばかりで、多くの観光客が来ていました。館内では、雲仙普賢岳の爆発時の資料が展示されていました。火砕流の速さを電光で表示する装置やら、圧巻は、土石流・火砕流を実感できるシアターです。火砕流の熱風や地盤の振動が実体験でき、大きな感動を呼びました。雲仙小湧園ホテルで昼食をとりました。中にはじつくり腰を据えてお酒をたしなんで交流を深めている方もおら



れました。復路は、VTRを見ながら途中土産品店に寄り、二十時に小倉駅に着きました。強行軍で、若干の疲れはあったようですが、皆さんには満足をしていただけたものと思います。

このたび第十六回のボランティア交流会に参加させていただきました。いつもながら山田さんはじめコーディネーターの皆さんの行き届いたお世話により、有意義で且つ楽しい会になりました。

行きの車中では「さわやか」五周年に当たり、これまでの経緯をまとめたVTRを見せさせていただきました。設立の趣旨から活動状況の変遷、運営上の諸課題等につきそれぞれ立場の方々の考え方がうまくなるとめられ、大変分かりやすい内容になっていました。特に印象に残ったのは、江頭会長の「すべて役所にお願いするということではうまく廻

朝七時ちょうど、バスは雲仙「がまだすドーム」に向け小倉を出発、八幡を経由し高速を西へ。やがてフェリーで有明海を渡り昼ごろ到着。「がまだすドーム」とは雲仙岳災害記念館の愛称で、火山を体験学習できる、普賢岳の土石流の跡地に建てられたドーム型の建物でオーブン間もないのでキラキラ輝いていました。ドームの中では一九〇年前の噴火騒動をアニメ風に見せたり、平成大噴火シアターでは実写とCGで普賢岳の噴火を再現してとてもリアルで感動し

ボランティア研修交流会に参加して

小倉地区 徳永 定嗣 さん

らない。自分達がやるのでバックアップをお願いするということが活動が軌道に乗った」というくぐりでした。目的地「がまだすドーム」では、平成二年に始まった雲仙普賢岳の噴火災害の様子がいろんな角度から展示されていました。中でも「平成大噴火シアター」は大画面による噴火の映像と、連動床や熱風により災害を疑似体験できる圧巻でした。三宅島や有珠山等火山噴火はあちこちで起こっていますし、阪神大震災はじめ地震も頻発しています。大災害に遭遇したときどう対処したらいいのか、考えさせられる研修会でした。

八幡地区 高倉 徹也 さん

ました。おまけに床が画面にあわせて振動したり、熱風が出たりで効果バツグン。バスのガイドさんが「がまだすとは、がんばれ、とかがんばろうという意味ですよ。」と言っていた。このガイドさん、われらが「さわやか」の山田コーディネーターで、ほかに三人の女性スタッフも手分けして、ゲームやクイズなど趣向をこらして旅を楽しませてくれて、ほんとうにお世話になりました。来年も是非参加したいと思っています。

九月六日の研修会に参加させていただきました。行きのバスの中では参加者の紹介を兼ね一人一人に一般常識のクイズが出されたのですが、「なるほど」と思うことも多くとても勉強になりました。また、菊水インターを通して時間を当てるクイズでは、私が九時六分という時間を当て、ハイウェイカードを獲得しました。

八幡地区 芳井 紀代美さん

その後、雲仙温泉で昼食と温泉を十分に満喫し、心も身体もリフレッシュし、帰路につきました。帰りのバスの中でも豪華賞品のかかったビンゴゲームがあり、皆、満腹で眠い目をこすりこすり参加し、すてきな賞品を獲得したようでした。さわやかなの役員の方々、また一日ガイド役を務めていただいたコーディネーターの皆様、お疲れ様でした。そして、楽しい一日をありがとうございました。最後に、私は決して運転手さんを買取してはけません！

目的地の雲仙岳災害記念館「がまだすドーム」では、火砕流と土石流をスクリーンで再現する平成大噴火シミュレーションがあり、木々が倒され、家が流される様子を目の当たりにしました。

小倉地区 小倉 八幡両コーディネーターさん、計画・実施・終了までご苦労様でした。

ボランティア研修交流会に参加して

第十六回研修会も無事終了し、一日を楽しく遊び、学べた研修でした。

昇 さん

業務を励行されていることを痛感します。正確さがボランティアとのコミュニケーションケーションを最高に生かされているのがコーディネーターの全財産であり、「さわやか」の顔です。私も大いに見習う部分があります。

巻 木

小倉地区

この事業は、ボランティアがいて成り立つ事が通常であると私なりに想像していました。「さわやか」のコーディネーターの占め

私は現職中で要望通りに活動が出来ないのが頼り不足です。今後皆様のご指導を賜りながら、お手伝いをさせていただきます。



長洲港を九時五五分発のフェリーに乗るため、高速道路を降りて一般道路へ出たところ、前の車がのろのろ運転。「フェリーに間に合わないかも…」と運転手さんがつぶやいたが、なんとか間に合いました。ホッ！

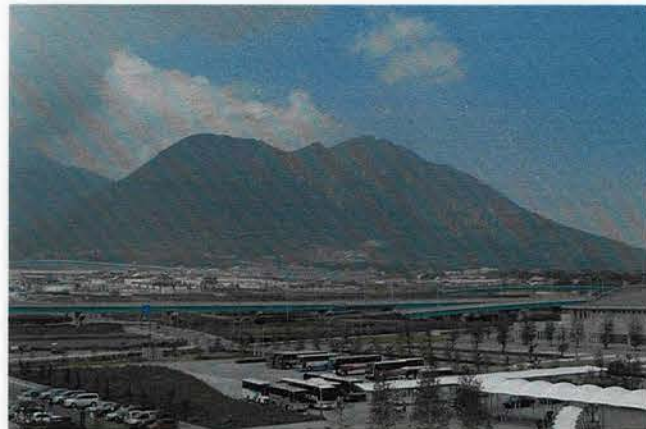


小倉事業所の梶原さん。交流会で時間当てクイズのブービー賞を渡すとき、いきなり郷ひろみの「お嫁さん」の音楽に合わせて踊り、その場を一気に盛り上げていた。



時間当てクイズで見事にピタリ賞に輝いた芳井紀代美さん。「さわやか」山田コーディネーターの妹でもあり、外野から「やらせだ！」「賄賂作戦だ！」との野次をあびていた。本人は「潔白です！」と弁明しきりでした。

研修交流会エピソード集



交流会で梶原さんと一緒に踊る予定だった八幡事業所の高原さんは、音楽だけ流して出て来なかった。長旅の疲れか、はたまた、恥ずかしかったのかな？

潮風を受けながらフェリーは四十分で島原の多比良港に到着。接岸の為に船が大きく旋回したところ、「さわやか」のバスガイド？さんが「気分が悪い」と言っていたので、回りで心配していたところ、なんと船中でビールを一気飲みしていたらしい。しかし、さすがに気づいた人は少なかった。



参加された皆様へ： 貸切バスということで、「かわいいバスガイドさん」を期待して来られた皆様、本当に申し訳ありませんでした。これに懲りずに来年も参加してください。



数名のボランティアさんと小倉事業所の寄友さん。交流会での食事後、温泉にも入らず、日本酒両手にボランティア談義に花が咲いていました。



「さわやか」に対するご意見ご希望は、ご遠慮なくお申し付けください。尚、匿名希望の場合も、氏名は公表しませんので、明記して下さい。住所氏名が不明のご意見などは、返答を致しかねますので、ご了承ください。

「さわやか」新聞編集部

